

欧州・ドイツ特許の新時代：日本企業のための「ハイブリッド戦略」ガイド

1. ルート選択の比較：EPO vs ドイツ国内出願（DPMA）

スケールメリットのEPO vs 機動力のDPMA



2. コストと管理：単一特許（UP）の損益分岐点

「4カ国ルール」が判断の目安



3. 訴訟戦略：ドイツ国内訴訟 vs UPC

ドイツの強力な武器
「インジャンクション・ギャップ」

UPCの「Pan-European Injunction」



4. 最強のハイブリッド戦術

二重保護 (Double Protection)の解禁
UP (広域攻撃)とドイツ国内特許(堅牢な守り)を併用、リスク分散

実用新案の「分岐 (Branching-off)」
による待製
特許審査を待たずに数週間で権利行使・
差止め



警告書 (Protective Letter)
による防御
見本市での偽き打ち査察や促屋止
命令を回避するために事前提出



5. 日本企業へのアクションプラン



コア技術には「二重保護」を適用
事業の生々検となる技術はUPと
ドイツ国内特許の両方を維持



「虎の子」特許はUPで攻めに使う
重要な特許をオプトアウトせず、
全欧州的な効力として運用

英国 (UK) 市場の個別ケア
UPには英国が含まれないため、
主要市場の英国は別途個別で有効化